

..... 編集後記

◆ 新年あけましておめでとうございます。暖冬か？と思いきや、厳寒の冬が到来し、日本海側の各地で記録的な豪雪が続く中で新年を迎えました。今年こそ災害のない良い年になってほしいものです。

◆ 今月の地質ニュースには、地質調査総合センターの佃 栄吉代表から、年頭の挨拶が寄せられました。そのなかでイノベーション・ハブ機能の充実を目指していくという地質調査総合センターの運営方針が示されました。地質ニュース誌も、その一翼を担っていくべく、関係者一同、意を新たに一層の誌面の充実に向けて参りたいと思います。

◆ さて、今月号も、「北朝鮮は黄金の国?」、「モンゴルに地震断層を追う」、「山岳リクリエーションに活かす地形学・地質学」、「高知平野と高知海岸」、「ライマン雑記」と、多彩な内容となりました。

◆ まず、石原特別顧問は「北朝鮮は黄金の国?—コリア半島の金鉱床とその基盤的背景—」と題し、近代のコリア半島における金を中心とした鉱業開発の歴史から、金鉱床の産状や金の産出量、そして金鉱床の成因・地質学的背景までを詳しく紹介してくださいました。戦前から戦後にかけての入手困難な貴重な資料を多数集められ、整理し紹介された力作で、後世に残る貴重な文献となりそうです。表紙・口絵の写真も、韓国鉱業の実像を知る上で貴重な情報でしょう。

◆ 次に、大矢 暁氏の「モンゴルに地震断層を追う」はモンゴルで開かれたフィールドを中心とする活

断層に関する国際会議の報告、モンゴルとその周辺地域の活断層の概要について詳しく解説してくださいました。地表に現れた地震断層は実に見事というしかありません。植生に覆われたわが国では、地震断層はなかなかよく見えませんが、モンゴルの草原地帯では実に良く見えるようです。見えない地震断層を考える上で参考になりそうです。

◆ 苺谷愛彦氏ほかの皆さんは「山岳リクリエーションに活かす地形学・地質学—白馬大雪渓2005年の落石事故から学ぶもの」と題して事故から何を学ぶべきかを解説してくださいました。事故後の調査では、「装備が不十分」とか、「計画に無理があった」といった結論に終わりがち。口絵もあわせ、学ぶべきものを学び、事故防止につなげたいものです。

◆ 有田・須藤氏は「高知平野と高知海岸—津波と対峙する浜辺」と題して、高知海岸の砂と浜辺・大津波への対策などを紹介されました。将来発生するとされる大津波に対し、防波堤の強化には限界があり、住民一人一人が災害に備えることが重要と指摘しています。

◆ 副見氏の「ライマン雑記」は今回で21回目の掲載となりました。1890年頃のフィラデルフィアでのライマンの生活にまつわる記録です。アメリカで先端技術を学ぼうと頑張った若者達の声が今にも聞こえてきそうです。

◆ 一層の誌面の充実に向けて参ります。皆様のご支援をお願いいたします。(須藤定久)

地質ニュース編集委員会

委員長：須藤定久

副委員長：吉田朋弘

委員：高木哲一・丸山 正・高橋裕平・

光畑裕司・七山 太

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754

Fax. 029-861-3746

地質ニュース	第617号	2006年	1月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費		
2006年1月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel.(03)3265-0951 Fax.(03)3265-0952		
	http://www.jitsugyo-koho.co.jp		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		

© 2006 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ